

多摩デポ通信 第32号

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

2014年10月18日発行

〒182-0011 調布市深大寺北町一・三一・一八

●HP / <http://www.tamadepo.org/>

●E-Mail depo_tama@yahoo.co.jp

全国図書館大会の

公募型分科会

「広域図書館行政と図書館再生―県立図書館を中心とした共同保存の可能性」

参加して下さる

1)注目のポイント

今年の全国図書館大会は、お茶の水の明治大学を会場に行なわれます。11月1日(土)に公募型分科会という新たな枠が用意されました。多摩デポは、三多摩図書館研究所と共同で企画提案し、採用されました。私たちの課題をそのままテーマにした分

科会です。

県域での共同保存を始めている富山、岡山、愛知、埼玉県の県立図書館の担当者に事例報告の依頼や、かつてこの事業を始めた滋賀県立図書館で館長をされた梅澤幸平氏に基調講演をお願いしたりと準備しています。幸い希望の発表者にすべて来ていただくことが出来ます。「共同保存」をテーマにした研究集会、こうした切り口で県立図書館の課題を考える集会は日本で初めてです。

当日参加もOKです

詳しくは別紙チラシ、HPをご覧ください。

第21回 多摩デポ講座

公益財団法人 大宅壮一文庫 見学会

12月6日(土) 午前9時30分～11時

集合：京王線・八幡山駅改札前 午前9時15分(厳守)

評論家・大宅壮一(1900-1970)の雑誌コレクションを引き継いで、明治時代以降130年余りの雑誌を所蔵している雑誌専門図書館のバックヤードツアーです。

「明治・大正・昭和のレトロな雑誌がざっしり詰まった迷路のような書庫の旅」へ、一緒に行ってみませんか。

参加費：無料

定員：15人(申し込み順) ※要事前申込

※今回は見学場所の都合により15人限定です。

お申し込みは、メールかFAXで12月3日までに多摩デポへ

E-Mail : depo_tama@yahoo.co.jp FAX : 042-484-3945

もう直前です。少しお高いですが、地の利を生かしてぜひご参加ください。

関連ですが、埼玉県立浦和図書館が来年3月で閉館予定との発表をし、利用者説明会を開きます。10月22日、23日、25日、埼玉会館にて。いづれ熊谷市に機能集約した新館を作る方向のようですが、詳細は不明。

新都立多摩図書館の建設が着工される

JR西国分寺駅を出て南(府中側)に、駅舎に沿って武蔵野線ガードをくぐり、府中街道を渡ると、5分程度で向かい側の高層住宅の後ろに広い都有地が広がります。国鉄時代には鉄道中央学園という全国規模の研修施設があり、その後東京都に譲られた土地で、その東側は都立武蔵野公園として公開され

ましたが、西国分寺駅に近い部分は長いことフェンスに囲われた空き地でした。

ここで8月末から、いよいよ新都立多摩図書館の建設工事が始まっています。東京都の工事予算が認められ、契約締結がされたためです。現在わかる情報を伝え、期待と課題を書きます。



今年6月都議会でも都立多摩図書館建設工事契約締結が案件となり、関連して20日の文教委員会でも、議員質疑が行なわれました。議員からは設計内容や、立川市の現都立多摩図書館および都立中央図書館との書庫や収蔵冊数の比較などの質問がありま

した。議事録はインターネットで公開されています。

工事契約締結を経て、8月21日夜には近隣する国分寺市立第四小学校で、着工説明会が行なわれました。

この二つの会での説明と配布資料によると、

建物は、地上3階、塔屋1階、延べ床面積8,972㎡。1階は開架閲覧室、展示イベントスペース、飲食スペース、準閉架書庫、管理部門。2階は200人収容のセミナールーム、それ以外は閉架書庫。3階はすべて閉架書庫。書庫収容能力は、都立中央208万冊、現都立多摩103万冊、それに対して新都立多摩285万冊。

工期は平成28年8月31日まで。(竣工後に、地下の集密書架が多い現都立多摩図書館から資料搬入するのに時間がかかる予想らしいとの説明も別のところで聞きました。)

この南側に、都有地はまだ広く空いています。その南端で都立小金井特別支援学校仮設校舎の建設工事が始まっています。建ってもそれは仮設運営でいずれば本来の小金井に戻ります。また南側の一部に、東京都公文書館が平成31年、敷地6000㎡で移転予定のようです。

着工説明会では現都立多摩図書館の館長は、都立多摩図書館のマガジバンク、児童青少年サービスは引き継ぐ、最寄駅がJR中央線になるの、地元の小学校や中央線沿線の多くの大学と連携していきたいと希望を語っていました。

しかし実は面積の大半を占める閉架書庫の機能や運用の説明はありません。

そこがどうなるか、そのところの多摩の市町村立図書館との連携が、期待と今後の課題——市町村立図書館にとっても多摩デポにとっても——だと思えます。

第20回

多摩デポ講座報告

「坪井さん、松島さん、 大いに語る」

多摩地域の図書館行政を
にう図書館員に聞く(一)

8月4日(月)午後6時半
から14人が参加し、国分寺労
政会館第一会議室で、表記の
多摩デポ講座を開きました。
府中市立図書館の坪井茂美
館長、あきる野市図書館の松
島満館長の二人講師の講演
会です。

多摩では久しぶりに、どち
らも2007年に新設の中
央図書館で、自動出納書庫が
入っています。府中市立中央
図書館は、民間資金によるP
FI事業として建設されま
した。あきる野市は、秋川市
と五日市町の合併により生
まれた市で、図書館もそれに

伴い統合されています。自動
出納書庫もPFI事業も合
併による図書館統合も、当初
こそ多くの論評があります
が、しばらくするとその後ど
うなった、という検証は大変
少ないと思います。そんな中
両館長には大変率直に語っ
ていただきました。

参加したお二人から感想
をいただきました。

実に楽しい会でした！

武蔵村山市立図書館

国分一也

(はじめに)

もう20年以上前になりま
すが、当時福生市立図書館に
いた戸室幸治さんが中心と
なって活動していた「図書館
を考える勉強会」で、多摩地
域の現職の館長さんを招い
て様々な話を聞くという場
がありました。まだ駆け出し
の私にとっては、とても貴重
で大変良い機会でした。

今回の企画は、保存という
観点からがメインで、昔の会
の趣旨は異なりますが、また
とない機会と飛びつきまし
た。開催がちょうど第一月曜
日にあたり、全くフリー(私
の勤務する館が完全に休館
になる唯一の日)だったので
いそいそと出かけた次第で
す。

(府中市)

坪井さんのお話で印象に
残ったことは、開館以来の
「図書資料については、原則
所蔵する同じ資料の一冊を
永年保存とする」ということ
が、今でも守られていること
です。このことは、先ほどの
「勉強会」で当時の館長の朝
倉雅彦さんから伺った記憶
があり(記憶違いでしたらお
許しください)、図書館はこ
うありたいものと思いまし
た。しかしながら、PFI導
入や正規職員の異動が激し
く、その理念をきちんと伝え
ていくことがだんだん難し
くなりつつあるとのこと

した。その苦労を思うと、大
変重みのあるお話だったと
感服しました。

保存を重視することから、
選書はかなり厳しくされて
いるとのことで、市町村間の
相互貸借も貸出も多いが借
用も多いそうです。6年前私
が、相互貸借を担当してい
たときも、そのことは薄々感
じており(蔵書が一番少ないウ
チの図書館から、一番多い府
中市に貸し出す方が多いく
らい)、新聞広告等で大きく
掲載されていても、購入せず
に借用で済みますその矜持に
感心したこともあり(当
市でもできれば購入したく
なかつたものが多いので、こ
れは決して嫌味ではありません
せん)。

私の勤務館では、話題にな
っているものは(たとえ一過
性のものであっても)、やは
り借用するまで利用者をお
待たせするよりは早く提供
したいということで、新刊で
あればなるべく入れていま

すが、もともと資料数が少ないゆえ蔵書構成を考えると本当に悩ましい問題です。

一方、都立図書館の協力貸出の制限が厳しくなったことから、リクエスト用紙を見て、これは都立から借りても当館から館外貸出ができないと一瞥して分かるものがあり、府中市立図書館なら所蔵しているかもしれないと思うものも多く、実際多くの資料を借用できたことは、きちんと保存しているからできることで本当に感謝しております。

〈あきる野市〉

松島さんのお話では、やはり『五日市憲法』で、その保存状態が諸般の事情であまり良くなかったこと、そのため原本の閲覧を制限せざるを得ないことでした。そのためインターネットで全画面（26面）を見ることができて良かったと思いました。お話を伺うまでは、和紙に書かれており130年程前の比較

的新しい史料なので、研究者であれば容易に手に取って見ることができると勝手に思っております。中央図書館内に専用の書庫も設置されたことから、今後は長く良好な状態で保存がなされることでしょう。

また、保存とは直接関係ありませんが、中央図書館、東部図書館エルの開館後に、規模が小さく利用の少ない山間部の分室を閉室していったことや、残った増戸分室の委託など、施設の再編成のお話も、人口密集地と山間部という広い市域を抱える自治体の問題として印象に残りました。

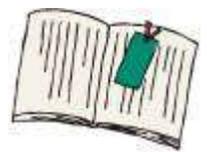
私の勤務する市は、中央図書館はないものの狭い市域に6図書館（すべて複合施設）が地域的にバランス良く配置されているので、こうした問題には関心が高いのです。将来、施設自体を維持できるかという問題と併せて避けて通れない問題だと思

っております。

〈おわりに〉

蔵書が満足になく購入した分をそれこそ廃棄せざるを得ないわが図書館を見るにつけ、多くの蔵書を揃えて保管スペースもあるのが羨ましく、眩しく見えました。それでも、さまざまな問題を抱えていて、そのことを正直にそして誠実にお話をされたことは、大変好感が持てました。

お二人には、大変お忙しい中を貴重かつ濃厚なお話をしていただき本当に感謝します。ただ参加者は10名以上おりましたが、現職の図書館職員が3名？（たぶん）というのは、実にもつたいないことでした（普段、多摩デポ講座にほとんど参加していない私がこんなことを書くのは失礼ですね）。あと時間が足りないというか、あつという間の2時間半でもう少し長くお話を伺いたかったというのが正直なところです。



二つの図書館の

自動出納書庫

日野市立図書館
鬼倉正敏

あきる野市中央図書館は2007年8月、府中市立新中央図書館は同年12月に開館し、いずれも自動出納書庫を設けている。収容能力は、あきる野市が24万冊、府中市が70万冊であるが、府中市はかなり満杯に、あきる野市は60%強とのことである。

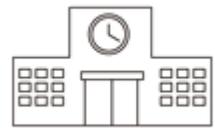
運用上の課題として、導入初期にコンテナと経路の調整が頻繁に必要だったこと、コンテナサイズはA5、B5、A4、フリーの4種であるが、府中市はフリーサイズが足りなくなつて買い足したこ

と、コンテナに凶書を収納する時はみ出したりすると、資料の破損やコンテナがストップすることがある。3月11日の東日本大震災ではいずれも支障は無かったこと、ある震度を超えると安全装置が作動することである。

あきる野市は書庫が横長だが府中市は縦長で数フロワーにわたる。あきる野市は職員が書庫内に入れるが、府中市は上部には職員が上がるのは危険で業者対応が必要ということ、可能であれば、横型の方が運用しやすいだろう。

いちばん、問題だと感じたのは、自動出納書庫に収納した資料を利用したレファレンスである。集密書庫であれば分類ごとに収められているから、まとめて調べられるが自動出納書庫では、それは大変困難ではないかと感じた。

事務局員の 面々から



「呼ばれ方で、図書館 の利用度がわかる？」

雨谷 逸枝

都立高校に異動して、数年がたちます。

全日制・定時制の2課程併置の学校ですが、生徒たちは「〇〇さん」「司書さん」「先生」「(呼称なしで)やあ！」と4通りの呼び方をしてくれます。この呼び方で、おおむね図書館の利用度が想像できるよつこになりました。

「〇〇さん」と呼んでくれる人たちは、小中学校での図書館利用を愉しんでいた人です。学校司書の皆さん・司

書教諭の皆さんの力を感じさせてくれます。

「先生」と呼んでくれるのは、学校にいる大人を全て同じように呼び、役割分担の認識が薄いようです。

「(呼称なしで)やあ！」と呼んでくれる人は、図書館を図書館として利用するというよりは、場所としての図書館と雰囲気が好きなん。

そして、「司書さん」と呼んでくれる人たちはといえば、図書館が組織であることと理解していて、国会図書館・都立図書館・市町村立図書館・大学図書館・専門図書館などの役割分担も大体わかっていて、学校の図書館も住まいの近くの図書館も日常的に自分の判断で使い分けているよつこな人。

文化祭などのイベントや課題学習対応のために市立

図書館から借用してきた古い凶書を提供する場合にも、やたらに恐縮したりするのでなく、手にできたことを素直に喜んでくれるのです。この人たちにとっては、図書館がレファレンスや相互貸借・協力貸出で利用者に資料提供をするのは「当然のこと」。

図書館が身近に、暮らしの中に息づいているのを感じさせてくれ、嬉しくなります。

忙しい高校生にとって、「刊行から30年以上経過した凶書は、借受館留め置き」の都立図書館蔵書は、「使えない」に等しい。在校中の3年(又は4年)の間に、古今東西いろいろな凶書に遭遇して知的好奇心を満たす楽しさを体験してもらいたく、図書館ネットワークの一層の拡がりを願っています。

多摩デポブックレット 10号編集、進行中!

今年度の通常総会記念講演の内容を中心に松岡要氏に書きおろしていただいたものの編集が進んでいます。

図書館は、生まれると同時に図書館同士の連携を必要とする。「法」にはありがちなことだが、豊かな内容を持つ図書館もまた、その理念を実現するための制度は不十分なまま推移し、残念ながら、むしろ弱められる方向に向かっている。

求められる資料を求める人に確実に届けることを追求するなら、共同保存に繋がる図書館の協力連携を伸ばすことが欠かせない。どうしたら実現できるだろう?
新たな仕組みの提起も含めた濃い内容となつていきます。次号の「多摩デポ通信」と一緒に皆さんの手にお届けできる予定です。

メーリングリスト ちよつと困ったこと

今回は最近あったトラブルをご紹介します。

トラブルは原因が分かる場合と不明な場合があります。中には原因が分からないままに、いつの間にか解消している場合さえあります。紹介する事例は、どちらも原因不明です。

せっかくの情報共有の道具です。送信されたメールは全員に届いていることが前提なのが、メーリングリスト(以下、ML)のメリットですが、「届いているはず」が時に盲点になります。

●事例1..
期せずして退会となつてしまった

ある会員の方がMLを退会したとのお知らせメール

が、ML管理者に届きました。ご本人に確認したところ、やめる気はないとのことだったので、再登録しました。
MLで届いたメールへの操作で、退会手続きとなることはありませんが、HPで退会手続きメニューがあります。

●事例2..
ML配信のメールで不着がある

freeml MLで一部のメールが届かない、自分が発信したメールが配信されない状況が報告されています。

ML配信のメールには件名に通し番号がきます。それが飛んでいる、あるいは自分の発信メールが他の人に届いていないことから発覚しました。まだ未解決です。

他にもトラブルがあるかもしれませんが。お気づきのことがありましたら、事務局までお知らせください。

★会の現勢

2014年10月1日

現在

●会員

(個人会員100名)
(団体会員3団体)

●賛助会員

(個人43名)
(団体1団体)

2014年度も後半に入りました。

会費納入がまだの方は
お早めに納入ください
すよう、よろしく願います。

●年会費

正会員(個人・団体)
五千元

賛助会員一口 二千元
(個人一口団体五口以上)